

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語24人 算数24人 理科25人

第5学年 国語30人 算数30人 理科30人

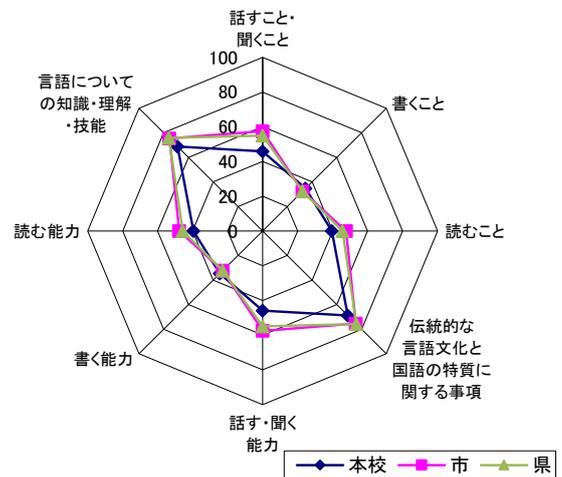
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 45.8 | 57.5 | 54.9 |
| | 書くこと | 34.7 | 32.3 | 32.3 |
| | 読むこと | 39.6 | 47.7 | 45.7 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 68.8 | 75.3 | 75.8 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 45.8 | 57.5 | 54.9 |
| | 書く能力 | 34.7 | 32.3 | 32.3 |
| | 読む能力 | 39.6 | 47.7 | 45.7 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 68.8 | 75.3 | 75.8 |



★指導の工夫と改善

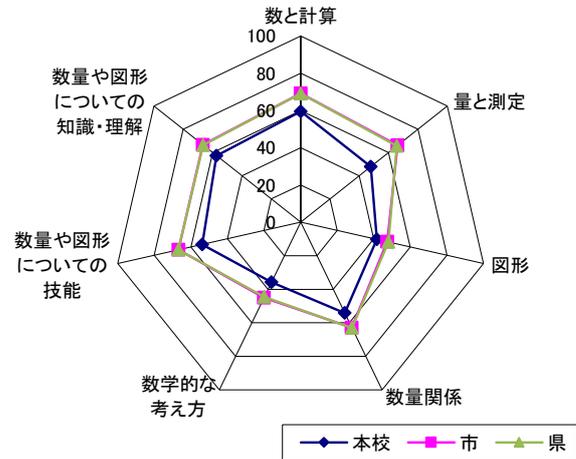
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行することについて、県の正答率を下回っている。 | ・国語の授業を中心に、話し合いの機会を意図的に設定し、誰もが司会を経験するようにしたり、司会進行のマニュアルを活用したりすることで、司会者の役割などについて理解できるようにさせたい。 |
| 書くこと | ○メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書くことについては、県の正答率を上回っている。 ●メモや友達の意見を基に、報告レポートのまとめを書くことについては、県の正答率を下回っている。 | ・空欄に当てはまる文章や資料を考えてポスターを完成させる活動をさせ、書く目的に応じ、必要な内容や資料を児童自ら選び、まとめることができるようにしたい。また、日常の学習活動の中で自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、継続的に文章を書く習慣を身につけさせ、書く力を高めていきたい。 |
| 読むこと | ○叙述や会話文を基に、登場人物の性格を捉えることについては、県の正答率を上回っている。 ●段落相互の関係を捉えて読むことや文章を読んで考え、まとめたことを発表し合うことについては、県の正答率を下回っている。 | ・各教科の授業や家庭学習などで音読をする機会を多くし、文章に親しんだり、読んだりする活動を多く取り入れるようにする。 ・説明文では、段落のまとめりや段落相互の関係をとらえさせるために、接続語や指示語に気を付けながら、段落の要点をまとめたり、段落のつながりを図で表したりして、内容を構造的に理解させていきたい。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○会話文におけるかぎ(「」)の使い方については、県の正答率を上回っている。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方について、県の正答率を下回っている。 ●該当学年の漢字の読み書き、国語辞典の使い方について、県の正答率を下回っている。 | ・ローマ字による書き方については、家庭学習などを通して復習する機会をつくるようにする。漢字の書き取りについては、新出漢字の指導を十分行うとともに、前学年で学習した漢字についても、家庭学習などを通して復習する機会をつくるようにする。また、単元ごとに行うテストやステップアップシートなどを活用して習熟を図りたい。 ・国語辞典の使い方については、物語文や説明文において意味調べの活動を取り入れ、言葉の並び方の理解や適切な意味の選択の力を付けていく。 |
| | | |

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 59.5 | 69.2 | 69.1 |
| | 量と測定 | 47.9 | 66.1 | 65.6 |
| | 図形 | 41.7 | 47.4 | 48.0 |
| | 数量関係 | 54.2 | 62.9 | 63.1 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 35.8 | 45.1 | 44.6 |
| | 数量や図形についての技能 | 53.8 | 66.8 | 66.8 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 57.3 | 66.6 | 66.5 |



★指導の工夫と改善

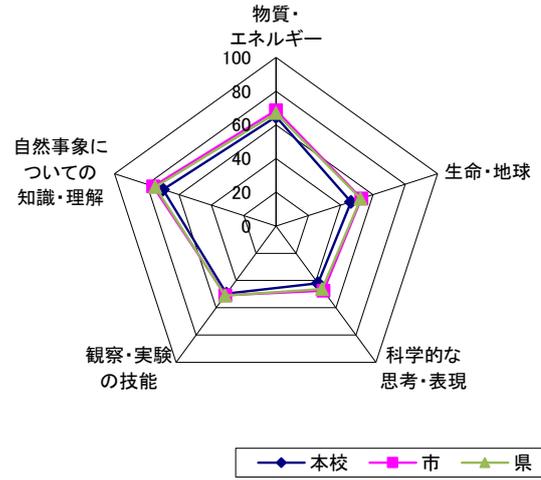
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と計算 | ○小数と分数の大小関係を不等号を用いて表すことについては、県の正答率を上回っている。 ●3位数×2位数=5位数や整数-小数=小数(1/10の位までの小数)の計算、数直線上で万の単位の数を読み取ることについては、県の正答率を下回っている。 | ・筆算の位をそろえて計算したり、繰り上がりの数字を書かせたりすることを徹底するとともに、見積もりや見直しなども習慣付けるようにしていきたい。 ・数直線については、大きな数やがい数、小数の仕組みなどの学習でもう一度確認をさせ定着を図りたい。 ・家庭学習などで既習の学習内容を繰り返し行うようにしていきたい。 |
| 量と測定 | ○はかりに示された重さを読み取る(2kgはかり)ことについては、県の正答率を上回っている。 ●ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求めることについては、県の正答率を下回っている。 ●算数の教科書4年(上)1さつのおよその重さを選ぶことについては、県の正答率を下回っている。 | ・時刻と時間については、始めの時刻と終わりの時刻、その間の時間を時計の図や数直線に描き表しながら、60進法の仕組みが十分理解できるようにしていきたい。 ・はかりに示された重さを読み取る際には、重さのおよその見当をつけさせ、実際の重さと常に比べるようにする。 |
| 図形 | ○箱に入った同じ大きさの6個のボールから半径を求めることや、1辺5cmの正三角形を1cm間隔ドット上に作図することについては、県の正答率を上回っている。 ●円周上の点Aを通る直径を定規を使って作図することや円を利用してかいた三角形の名前とその理由を答えることについては県の正答率を下回っている。 | ・円の中心や半径と直径の関係、正三角形などの基本的な特徴を用いた応用問題を授業や家庭学習などで取り上げ、課題の解き方に慣れるようにしていきたい。 |
| 数量関係 | ○未知の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶことや式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶことについては、県の正答率を上回っている。 ●□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶことや棒グラフの目盛りの大きさを読み取ることについては、県の正答率を下回っている。 | ・文章問題においては、キーワードを見付けながら意味をよく考えて式を立てたり、式の意味についても考えたりするよう、繰り返し指導していきたい。 ・棒グラフについては、様々な目盛りや単位のグラフを読み取ったり、描いたりする学習を通して、一層の定着を図りたい。 |
| | | |

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 64.8 | 68.6 | 66.9 |
| | 生命・地球 | 46.4 | 52.8 | 52.4 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 42.0 | 47.4 | 46.2 |
| | 観察・実験の技能 | 49.6 | 50.8 | 51.1 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 70.0 | 76.1 | 74.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>○回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方の理解について、県の正答率を上回っている。</p> <p>○磁石を使ったおもちゃを回り続けさせる方法についての理解が、県の正答率を上回っている。</p> <p>○1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶことについては、県の正答率を上回っている。</p> <p>●豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測することについては、県の正答率を下回っている。</p> <p>●ゴムののびや風の強さと車が走る距離の関係の理解について、県の正答率を下回っている。</p> <p>●はかりの正しい操作の仕方の理解について、県の正答率を下回っている。</p> | <p>・「電気のはたらき」の学習の際に、具体物を操作させるなどして、回路の意味についてもう一度確認する。</p> <p>・「風やゴムのはたらき」の学習の際に、ゴムののびと車の走る距離との関係について、実際に具体物を操作することで学習内容をもう一度確認させる。</p> <p>・理科や算数の授業や家庭学習などで、はかりの正しい操作の仕方についてもう一度確認させる。</p> |
| 生命・地球 | <p>○場所と見つけた昆虫の数のグラフをもとに考察することや方位磁針の適切な操作方法の理解について、県の正答率を上回っている。</p> <p>●温度計の適切な操作方法の理解については、県の正答率を下回っている。</p> <p>●昆虫の成虫が、食べ物がない場所にいる理由を説明することについては、県の正答率を下回っている。</p> <p>●昆虫の体のつくりのうち、腹の部分の名称の理解については、県の正答率を下回っている。</p> | <p>・身近な自然や生き物の観察や温度計の適切な操作方法については、4年生でもう一度学習をする機会がある。実際に観察をしたり、操作をしたりする活動を通して学習内容を定着させていきたい。</p> |
| | | |

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」という問いに対しての肯定的割合が高い。基本的な生活習慣を意識しながら生活している児童が多い。

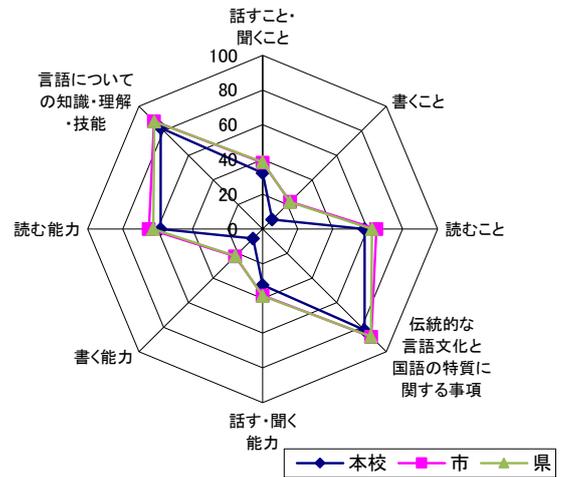
○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という問いに対しての肯定的割合が高い。

●「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という問いに対しての肯定的割合が低い。勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じる、疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい、できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしているという質問内容に肯定的な回答の割合が県よりも低い。各教科の授業では、児童の興味をひく課題の提示の仕方や関心の高まる学習方法を工夫するなど、さらに改善していきたい。また、課題へ取り組む際には、自力解決の場を多く取り入れるようにして主体的に学習に取り組もうとする意欲を育てていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 32.2 | 38.3 | 38.5 |
| | 書くこと | 7.8 | 22.3 | 21.9 |
| | 読むこと | 58.3 | 65.0 | 62.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 82.3 | 87.8 | 87.5 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 32.2 | 38.3 | 38.5 |
| | 書く能力 | 7.8 | 22.3 | 21.9 |
| | 読む能力 | 58.3 | 65.0 | 62.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 82.3 | 87.8 | 87.5 |



★指導の工夫と改善

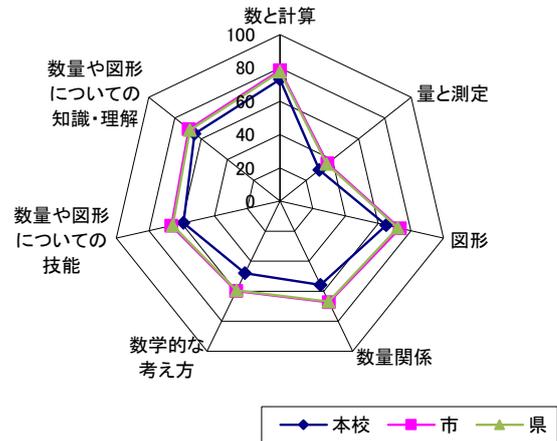
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|---|--|
| 話すこと・聞くこと | ○考えの共通点や相違点を整理しながら聞く問題では、県の正答率を上回っている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題では、県の正答率を下回っている。 | ・司会進行のマニュアルを活用しながら、話し合いにおける司会の役割を確認させる。 |
| 書くこと | ●メモや友達の意見を基に、リーフレットのまとめを書く問題では、県の正答率を下回っている。 | ・指定された条件に合った書き方で文を書くという経験を多くさせる。例えば、友達から出たいくつかの意見をまとめて書くなどの活動を取り入れていきたい。 |
| 読むこと | ○目的に応じて中心となる語を捉えて読む問題では、県の正答率を上回っている。 ●書こうとすることの中心を明確にして書く問題では、県の正答率を下回っている。 | ・指定された文字数で書くといった活動を、国語以外の授業でも取り入れていきたい。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○接続語の役割の問題では、県の正答率を上回っている。 ●漢字辞典の使い方の問題では、県の正答率を下回っている。 | ・漢字辞典の使い方については、授業で活用する時間を多く取り入れ、使い方を確認させる。 |
| | | |

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 73.1 | 78.6 | 77.7 |
| | 量と測定 | 30.0 | 36.3 | 35.7 |
| | 図形 | 65.0 | 73.3 | 72.1 |
| | 数量関係 | 55.8 | 67.4 | 66.9 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 48.0 | 59.9 | 59.4 |
| | 数量や図形についての技能 | 58.9 | 66.3 | 65.5 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 65.0 | 69.4 | 68.5 |



★指導の工夫と改善

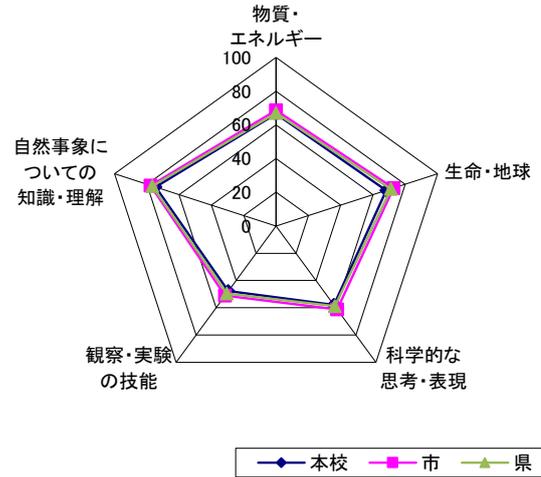
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|---|
| 数と計算 | ○倍で表された数量関係の場面を式に表す問題では、県の正答率を上回っている。 ●倍で表された数量関係の場面を表したテープ図を選ぶ問題では、県の正答率を下回っている。 | ・文章問題や図などを使って考える応用力が必要な問題については、問題をよく読んで問の意味や解き方の見通しを深く考えさせる習慣を身に付けさせていきたい。 |
| 量と測定 | ○1㎡の正方形は1cmの正方形何枚分かを求める問題では、県の正答率を上回っている。 ○図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題では、県の正答率を上回っている。 ●式に合った複合図形の面積を求める方法を説明するの問題では、県の正答率を下回っている。 | ・面積の理解が不十分であると考えられるので、面積の公式を機械的に覚えるだけでなく、その公式の意味を考えながら理解させるような指導の工夫をしていきたい。 |
| 図形 | ●与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成する問題では、県の正答率を下回っている。 | ・図形の特徴や対角線の性質を一つ一つしっかりと理解させていくよう指導の工夫を図る。作図は復習プリントで習得させたい。 |
| 数量関係 | ●買い物の場面で、1つの式に表した考え方を説明する問題では、県の正答率を下回っている。 ●2つのグラフについて、正しくない説明を選ぶ問題では、県の正答率を下回っている。 | ・考え方を文章で説明する活動を数多く取り入れていきたい。 ・複数のグラフの変化や関係性など詳しく読み取る力については、5年生で「帯グラフと円グラフ」を学習する時に、折れ線グラフの復習を行って身に付けさせたい。 |
| | | |

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 66.5 | 68.6 | 67.0 |
| | 生命・地球 | 68.2 | 72.7 | 71.1 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 57.9 | 61.2 | 58.8 |
| | 観察・実験の技能 | 47.8 | 51.0 | 49.5 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 74.6 | 77.7 | 76.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|--|
| 物質・エネルギー | <p>○へこんだピンポン玉が元の形にもどる理由を問う問題では、県の正答率を上回っている。</p> <p>●光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する問題では、県の正答率を下回っている。</p> | <p>・デジタル教科書や動画などを活用することで、子どもの興味や関心を高めるよう心がける。また、少人数で実験や観察などを行うことで、実感を伴った理解となる授業の工夫をしていきたい。</p> |
| 生命・地球 | <p>○太陽の動きから地面に立てた棒の影の動き方が分かる問題では、県の正答率を上回っている。</p> <p>●グラフを基に地面の様子と気温の変化について考察する問題では、県の正答率を下回っている。</p> | <p>・グラフの読み取りと図を関連づけて考える問題に慣れさせていきたい。</p> |
| | | |

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」や「人と話すことは楽しい」の回答が県および市の平均を上回っていることから、友達と学び合う良さを体験することができていると思われる。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の回答が県および市の平均を上回っていることから、学校や地域で、自分のよさを生かせるような場面を数多く作っていききたいと考える。

●「家で、学校の授業の予習・復習をしている」や「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」や「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の割合が、県および市の平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けて課題の出し方や家庭学習の仕方などを根気強く指導していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した割合が60%を超えている。普段から書くことに慣れさせたり、内容に合わせた文章の書き方を指導したりしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-------------------|--|---|
| 授業におけるまとめ・振り返りの充実 | 授業の最後に、本時のまとめを行って全員で確認し、一人一人がめあてに合った振り返りを自分の言葉でノートに書く時間を設けている。 | 「授業の目標が示されている」の質問に肯定的に回答した児童の割合、4年生80%、5年生90%に対して「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した割合が、60%、66%と4・5年生ともに低い。 |
| 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫 | 学年に応じた家庭学習に取り組む目標時間を設定し、連絡帳等に家庭学習した時間を記録させて、担任が確認する。学習内容や学習時間など、個に応じた指導を行うようにしている。 | 4・5年生ともに「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は86%以上だったが、家庭学習の習慣化に対して個人差がみられる。また、進んで取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて勉強している」は、68%以下である。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|--|-----------------|---|
| 算数の調査結果から、たし算・かけ算・割り算など、基本的な技能に関わる計算問題の正答率が県平均を7%～20%下回った問題があった。 | 復習により定着を図る学習の充実 | 朝の学習の時間を漢字と計算の練習と位置付け、ステップアップシート等を活用して復習させ、定着を図る。 |